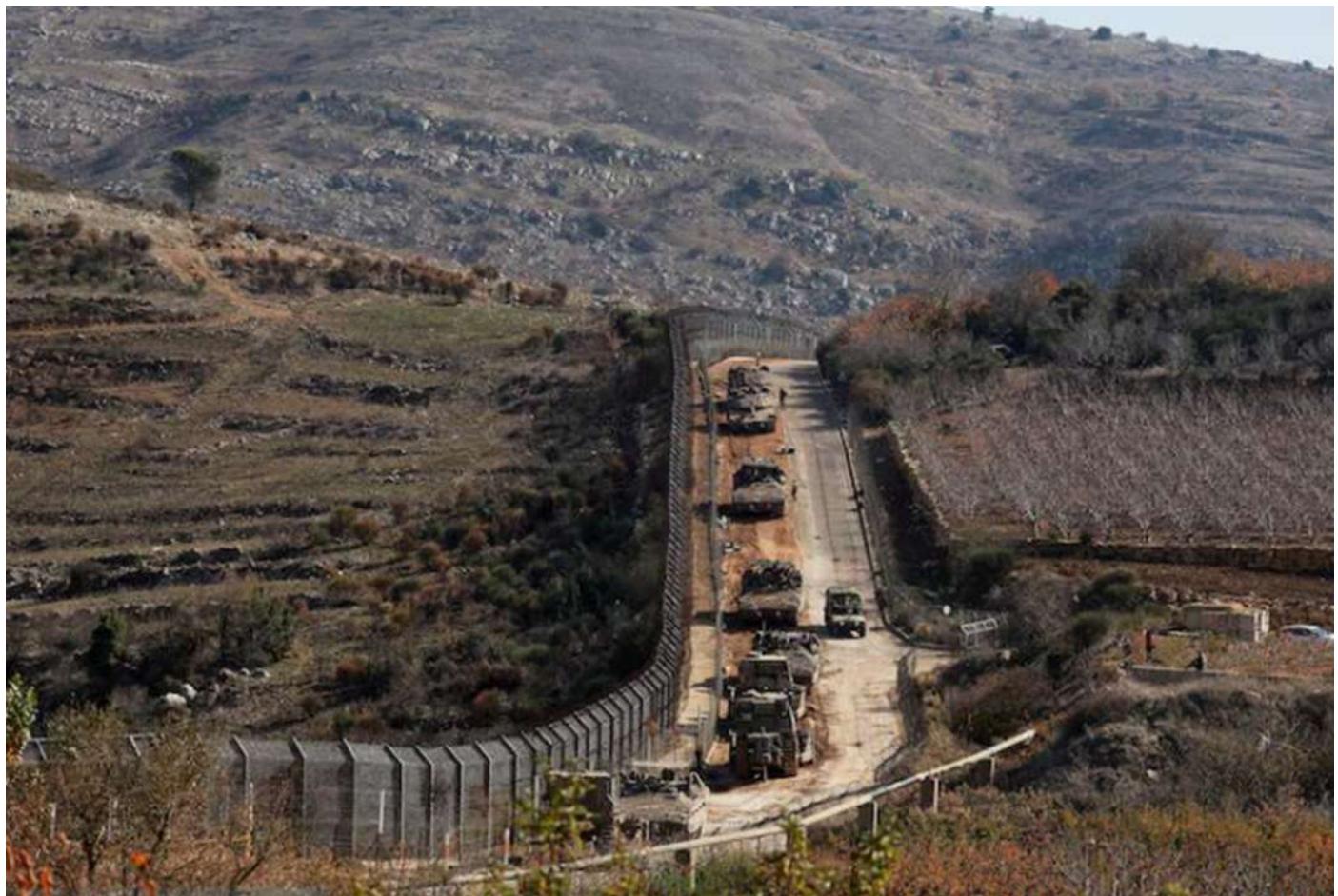


イスラエル軍、シリアへ侵攻、検問所設置

2015年12月20日、パレスチナ・クロニクル・スタッフ著、脇浜義明訳、



クネイトラ県郊外におけるイスラエル占領軍。(Photo: video grab)

イスラエル軍はシリアのクネイトラ県へ侵攻し、各所に検問所を設置し、いくつかの町に進軍、住民の抗議を引き起こした。

アル・ジャジーラの報道によると、12月20日イスラエル軍パトロール隊がクネイトラ県の田園地帯のAIN・ジワン村に入って占領、軍検問所を設置し、通行する住民を検問した。

シリア国営TVは、村の中でイスラエル軍車両5台を使って検問所を設置した、これはシリア主権の完全な侵害であると述べた。

シリア通信によると、AIN・ジワン村侵攻は、前日にイスラエル軍がクネイトラ県南部の町アル・アシャ、ビル・アジヤム、バリカ、ウンム・アル・アザム、ルワイヒナに向かって進軍した後に続いて起こった。

昨日金曜日、クネイトラ県アッサラーム市ではイスラエル軍の攻撃から住民と財産を守るために数十人の住民が結集した。これは「パレスチナとともにあるシリア」というグループが呼び掛けて行ったデモで、イスラエルの繰り返すシリア領土への侵攻に抗議する横断幕を掲げた。

この数か月間ほぼ毎日のように、イスラエル軍は、シリア南部、特にクネイトラ県への侵攻を繰り返してきた。この軍事行動には、逮捕、検問所設置、土地整地などがあり、住民は怒りを募らせている。

シリアに対する公然とした軍事的エスカレーションはアサド政権崩壊後減少したが、イスラエル軍は依然として空爆を続け、民間人を死傷させ、シリア軍拠点やインフラを破壊している。

2014年12月8日のアサド政権崩壊後も、イスラエルは1974年の軍事力引き離し協定の破棄を宣言し、緩衝地帯を占領し、シリア領内での軍事的プレゼンスを拡大し、占領軍となった。

住民や監視団体は、こういうイスラエルの行為の継続でシリア南部の安定回復努力が損なわれ、この地域の経済の復興を困難にしていると警告している。